

日米野球比較

The Comparison of Nippon Professional Baseball and Major League Baseball

1K04A142-7

高橋 洋丞

指導教員

主査 関一誠先生

副査 木村和彦先生

緒言

アメリカ、ニューヨークでアレクサンダーカートライトによって、タウンボールが改良され、ベースボールが誕生したのは150年以上前の1845年のことである。それから26年後の1871年米国人牧師のウィルソンによって日本にベースボールが伝えられる。

1931年読売新聞社主催の日米野球にて、大リーグオールスターが来日することになり、史上初の日本野球とメジャーリーグとの対戦が実現する。このときのメジャーリーグオールスターのメンバーにはルー・ゲーリック、ベーブ・ルースなどの大物が顔を揃えた。東京6大学の現役選手を中心とする全日本との試合を含め17試合をし、メジャーが全勝という結果になった。当時の日本とメジャーの力の差は、大人とことも程のものだったと言える。

1995年に野茂英雄が日本人初のメジャーリーガーとなってことをきっかけに、長谷川、伊良部、佐々木とあとを追うように多くの日本人選手が海を渡り、メジャーリーグで実績を残してきた。2001年には野手として日本人初のメジャーリーガーとなったイチローが、1年目から、首位打者、盗塁王、新人王、そして最も栄誉のあるMVPなどの賞を総なめにし、日本人のメジャーでの評価は非常に高くなった。その後も、松井秀喜や、井口、城島などもメジャー入りし、今では日本人がメジャーでプレーすることは当たり前のようになってしまった。

2006年に行われ、メジャーリーの参加も認められたワールド・ベースボール・クラシックでは、日本は見事優勝を果たし、世界1の栄冠を手にした。今や日本の野球は世界トップレベルであると言っても過言ではないほどになっている。

研究目的

野球はチームスポーツであり、打撃、投球、守備時にボールに関わるのは、一人であり、個人スポーツの特性を合わせ持つスポーツである。チーム一人一人の記録を統計することで見えてくるのは、チームの特徴、すなわちチームカラーである。打撃のチーム、投手のチーム、守備のチームと言ったようなものが挙げられる。また、これらのチーム同士を比較することでチームの野球における戦略の違い、すなわち野球の質の違いが明らかになるのだ。

本研究は、日本プロ野球とアメリカメジャーリーグそれぞれの2007年における成績を平均化し、比較することで日米の野球の質の違いを明らかにするものである。

結果・考察

< 打撃成績 >

メジャーでは、2塁打・3塁打・本塁打が多く記録され、本塁打率・長打率において日本との差が出た。逆に日本は全安打中の単打の割合が高く、犠打数においてはメジャーの約2.7倍の割合であった。

< 守備走塁 >

日本は失策数・捕逸数が少なく守備率も良い数値を残している。また保守の盗塁阻止率なども高いことがわかった。メジャーでは、試みられた盗塁の数がおおく、外野手の補殺の数も多いことから積極的な走塁をしていることがいえる。

試合数	日本 864 (各チーム144試合)	アメリカ 2430 (各チーム162試合)	M=メジャー J=日本		
打撃部門					
	合計数	1試合当り	合計数	1試合当り	多い方倍率
打数	58095	67.23	167783	69.04	A 1.026
得点	6960	8.055	23382	9.597	A 1.191
安打	15305	17.71	44977	18.51	A 1.045
単打	10970	12.69	29885	12.29	J 1.032
2塁打	2641	3.05	9197	3.78	A 1.239
3塁打	234	0.27	938	0.38	A 1.407
本塁打	1460	1.689	4967	2.039	A 1.207
塁打	22794	26.38	70921	29.18	A 1.106
盗塁	879	1.017	2918	1.20	A 1.188
盗塁率	406	0.469	1002	0.41	J 1.143
犠打	1462	1.692	1540	0.633	J 2.672
犠飛	397	0.459	1434	0.59	A 1.285
四球	4742	5.48	16080	6.61	A 1.206
死球	698	0.807	1755	0.722	J 1.117
三振	11591	13.41	32189	13.24	J 1.012
打率	0.2634		0.2680		A 1.02
長打率	0.3923		0.4226		A 1.08
出塁率	0.319		0.332		A 1.04
投手部門					
完投	129	0.149	112	0.046	J 3.239
完封	122	0.141	243	0.10	J 1.410
セーブ	437	0.506	1198	0.493	J 1.026
勝利回数	15361.1	17.78	43424.1	17.87	A 1.005
失点	6960	8.056	23382	9.597	A 1.191
自責点	6599	7.63	21583	8.881	A 1.164
暴投	475	0.55	1498	0.616	A 1.120
ボーク	67	0.078	139	0.057	J 1.368
防抑率	3.866		4.473		A 1.157
WHIP	1.350		1.446		A 1.07
守備部門					
守備機会	65986	76.3	181678	74.7	J 1.021
失策	931	1.07	3072	1.264	A 1.181
パスボール	95	0.1099	335	0.1378	A 1.254
守備率	0.986		0.983		J 1.003

まとめ

日米の記録を比較した中で最も差が顕著に現れたのが犠打数であったが、ここに日本とメジャーの野球の質の違いを見ることが出来る。犠打を多用する日本の野球は1点を取りに行く堅実な野球、すなわち守りの野球である。一方のメジャーの野球は、犠打が非常に少ないため、ヒッティングを多用し手いることが分かる。そのことから、メジャーの野球は攻撃的な打撃の野球であるといえる。